

【Web3.0（ウェブスリー）】

経済産業省では、省内横断組織として7月に「大臣官房 Web3.0政策推進室」を設置しました。今回は、この「Web3.0」について説明します。

1. Web3.0とは

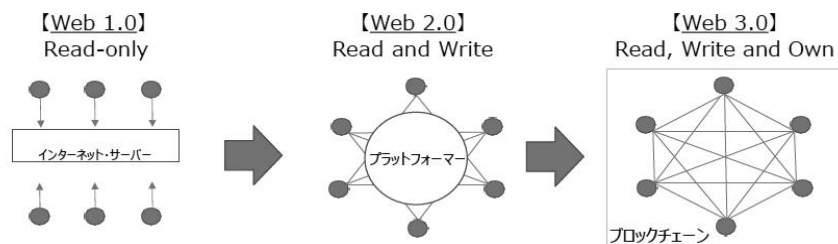
Web3.0とは、「分散型（非中央集権型）のインターネット」という意味で広く用いられます。デジタル技術の発展に合わせて、インターネット社会を3つの段階に分けて捉える考え方が登場し、初期における一方通行のコミュニケーションをWeb1.0、現在主流となっているSNSなどの双方向コミュニケーションをWeb2.0、中央集権不在で個人同士が自由につながり交流・取引するコミュニケーションの段階をWeb3.0とする概念が一般的です。

2. Web3.0への変遷

Web1.0時代は、Webサイトやブログなどで発信された情報を受動的に取得する一方通行で、回線速度が遅く画像表示に時間がかかるため、テキストが主体となっていました。

Web2.0時代になると、YouTube、Twitter、InstagramなどのSNSが登場し、多くの人が発信者となり動画や画像を発信し、視聴者側と双方向でのコミュニケーションが可能となりました。一方で、GAF（Google、Apple、Facebook（現Meta）、Amazon）に代表される巨大プラットフォームに個人情報が集中し、個人のプライバシー侵害の可能性や中央集権型の情報管理を狙ったサイバー攻撃について問題視されるようになりました。

Web3.0では、改ざんが困難なブロックチェーン技術により複数の個人ユーザー間で情報を相互保管・管理し、高度なセキュリティの実現が可能となります。また、プラットフォームを介さず個人間の交流や取引が可能となり、特定企業の管理に依存しないオープンな市場として期待されています。一方、非集権的であるが故に詐欺や犯罪などに利用されるリスクも懸念されています。



資料：経済産業省「経済秩序の激動期における経済産業政策の方向性」

3. Web3.0の活用例

代表的なもの1つとして、NFT（非代替性トークン）が挙げられます。NFTは個人などが作成したデジタルデータに偽造・改ざんが困難な資産的証明を紐付けします。実物を伴わない、デジタルアート、デジタルコレクターアイテム、オンラインチケットなどに唯一無二の資産価値を持たせ、様々な分野で新たな市場が拡大し、吉本興業やスクウェア・エニックスなど、大手企業も続々と参入を進めています。

また、メタバース（仮想空間）の世界においてもWeb3.0の活用が期待されます。ユーザーの分身として操作するアバターの衣装やアクセサリ、土地や看板等の賃貸など、現実と異なる仮想空間内のモノやサービスにも価値が付与され、ユーザー間での様々な取引が活性化していくと予想されます。

閑話ひとつ

◇10月11日に観光旅行を公金で補助する「全国旅行支援」が始まるとともに、訪日外国人に対するビザ免除の再開、入国者上限の撤廃、個人旅行の解禁が行われました。このため、日本人の観光客だけではなく、円安を背景にインバウンドが急激に増えることが予想されます。但し、コロナ禍で苦境を強いられてきた観光業界にとっては待ち焦がれた観光の本格的な再開ではありますが、人手不足が回復の足かせとなっているようです。

◇旅館業専門の人材派遣会社が今年9月に全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会に加盟する旅館・ホテル事業者160名を対象に実施したアンケート調査によりますと、事業者の9割程度が人手不足であると回答しています。また、国税庁の統計によりますと、2021年の宿泊・飲食サービス業の年間平均給与は全業種で最も低いということです。

◇観光業の人手不足を解消させるには、賃金水準を引き上げるとともに、デジタルの活用により、少ない人員で業務運営を可能とする業務の効率化が必要であると考えます。 (KW)